

いつも元気の砂長美んせんからの新年のお祝い

明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしく



皆

様、明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしく願いたします。

ちょっとご無沙汰していますが、お元気ですか？ 昨年は、おうち時間でさつまいも、大根など実家の庭で家庭菜園しました。沢山とれて、美味しかったですよ。さて、早速ですが2022年の3月までの企画予定です。ぜひ皆さんご参加くださいネ。

◎1月20日(木)に、「見ながら解る！障害者施設と作る国会のお土産の見学会」を企画しました。待ち合わせは、参議院議員会館になる予定です。1:00から、16:00の予定です。見学会の後、小さな相談会も実施します。お時間ある方は、是非参加メールをください。

◎1月22日(土)株式会社ミライロ、垣内社長のセミナーです。バリアバリューとはバリア(障害)をバリュー(価値)に変えていこうという思いを表しています。106cmの視点だから気づけること、車いすの私だから伝えられることがあります。人には誰しも苦手なことがある、人には誰しもつらい過去がある、コンプレックスがある。一見すべてはネガティブなものに見えますが、それはすべて価値になります。人それぞれが持つ経験や視点、感性はそれが必ず強みになるのです。障害を価値と捉えるバリアバリューの視点、創業ストーリー、経済性と社会性を両立するユニバーサルデザインについてお話しします。[https://www.z-kyosai.com/online\\_seminar](https://www.z-kyosai.com/online_seminar)

◎3月5日(土)横浜市ポッチャイベント:横浜市アトリウム、夜6時から、新庁舎1階 参加無料です。横浜市、NEC後援です。参加者募集中です。

◎3月22日(火)重度障害者社会支援フォーラム開催されます。私は、ボランティアで、運営支援をしています。場所は立教大学で、もちろんオンライン参加できます。フォーラムHPは<https://aitunag.com/> 県知事からのメッセージがアップできたところです。基調講演は、鹿児島県の株式会社障がい者つくし更生会様。色々な学びがあると思います。

コロナ禍で色々な動きが昨年は、制限されました。皆様もはじめての事ばかりで、大変だったと思います。今年は、気持ちを切り替えて、もっと働きたい障害を持つ人達への仕事を作っていきます。クリスマス12月25日は私の誕生日でした♪。昨年は、土曜日だったので 実家茨城県で、楽しく過ごしました。お誕生日メッセージ、返信いただいた方、一件につき100円、私の自費で寄付します。

「足長育成会 親を亡くした人への学生育成会へ寄付いたします」是非、近況報告または、一言で良いのでお返事をくださいませ。次回にメールにて、寄付金を報告します！

今年は年明けそうそうオミクロン株の感染が拡大しておりマスク生活はまだ続きそうです。今年もコロナに負けずに健康で良い年にしていきたいと思います。



一般社団法人 ありがとうショップ 〒151-0053 東京都渋谷区代々木 3-1-16 グリーンハイツ 201 [www.arigatoshop.jp](http://www.arigatoshop.jp) 砂長美ん 連絡先 090-8454-2409 [Binsunanaga@gmail.com](mailto:Binsunanaga@gmail.com)

またまた転居しました。  
私事になりますが2021年11月19日に、長沼町の旧住所から打越町へ転居しました。旧住所へは…それより前に住んでいた、同じ長沼町のアパートが…大家さんの都合(土地建物の資産整理)で取り壊されることに伴っての転居でしたが…そこに住んでいたのも僅かに2年あまり…しかも、今年の7月末に賃貸契約の更新を済ませたばかりで…あくる8月の初頭に、大家さんから転居して欲しいとの申し出がありました。…またもや、資産整理に伴う取り壊しが理由とのこと。さらにさらに…不可解なことに、8月に転居の要望を出し…大家さんからの転居期限が10月末までという…。いろいろと先を急ぎたいのはわかりますが…借り手の私からすれば、これはあまりに時間が無さすぎます。最低でも半年の余裕は欲しかったところでした。



こうした、あまりに一方面的な大家さんの要求には、賃貸契約者の杉浦と、大家さんとの間を仲介して下さる不動産屋さんも、かなり同情して下さいました。新しい打越町の転居先への紹介をして下さったことはもちろん、住宅設備のバリアフリー改装費用、転居費用、新居契約経費など…諸々すべて旧大家さんから支払ってもらえるように、親身に交渉して下さいました。

そんな不動産屋さん曰く…、『祖父母や両親が子や孫に継がせたいと思って建てたアパートやマンションも…実際、当の子や孫はただ札束の数でしか見ない。権利が自分の手に入った途端にさっさと処分してしまい、大切に残す気がない』と、昨今の風潮を嘆いておられました。

さて、この原稿を書いている現在は、打越町の新住所に移って、はや、ひと月が経とうとしているところです。10月に転居希望という大家さんの無茶な要求を突っぱねて、なんとか11月まで期日を延ばしました。おかげさまで、どうにか屋根のある暖かい家で歳の瀬を迎えられそうです。

しかし、新たに別の不安要素も…今住んでいるこのアパートも…建てられたのは昭和54(1979)年…またいつ取り壊しの話があってもおかしくないのです。先に書きました通り、近ごろは賃貸物件の管理を手放す大家さんも増えているという話です。今の大家さんにも頑張っていたきたい所ではありますが…、あくまでも賃貸物件の土地建物が大家さんのものである以上、借りる側の私たちは、資産の取り扱いについてのことには、なかなか意見が言えません。

何度も立ち退きにあっても、すぐまた新しい住まいが見つかることはとてもありがたく…本当に感謝してもしきれないのですが…これはあくまでも大家さんお一人おひとりのご理解、不動産屋さん一件一件のご協力等…個人としてのご厚意とご厚情にすがらせていただいた結果なのです。

社会全体として…地域または街そのものの大きな取り組みとして、賃貸契約居住者の権利…特に、この原稿の紙面で、みなさんにお話したいのは…高齢者や身体障害者の住み続ける権利、暮らし続ける権利をどう守っていくのか、という事なのですが…。

今回、自分自身の転居…という出来事に照らしてみても、福祉の支援を必要としている人たちの住まいに対する取り組みは、まだまだこれから…という気がします。もし…車いす使用の重度身体障害者の入居を認めてくれる大家さんがいなかったら…理解のある不動産屋さんに出会えていなかったら…。そしてもしまた突然に、自己都合でなく大家都合で、急な退去を言い渡されたら…これらのことは、契約者個人ではどうにもなりません。なんとか、街全体としての堅実な住宅提供や賃貸保証が欲しいところです。

つい先月、やっと引っ越したばかりではありますが…もう少しして散らかった部屋が片付いたらならば…、これまでは『どうせ当たらない』と避け続けていた市営や都営の公共住宅への応募にトライしてみようと思います。『今住む家にいつまで住めるか』…、ずっとそんなことでヒヤヒヤさせられるのは、そろそろ疲れてしまいました。

誰もが住みたい地域に安心して住めるように…そう望んでやみません。2022年もどうかよろしくお願いします。

**盲**導犬のユーザーは、犬たちが健康に過ごせるようにと、日常的に様々な注意を払います。その一つは衛生面のこと。歯みがきや耳掃除、ブラッシングやシャンプーを毎日行って、犬の体を常に清潔に保ちます。一般的に「犬は NG」とされているお店や乗り物、その他私が出かけるあらゆる場所に、盲導犬としてレジーナを連れていくのですから、盲導犬を常にきれいにしておくことが必須条件なのです。



もう一つユーザーが注意を払う事柄は、犬の食事のこと、つまり健康について配慮することです。何をどれくらい食べたかを、常に把握します。また、ねぎ類など犬に食べさせると害になる食品が混じった食べ物を絶対に与えないようにも気を配ります。

4 週間続く盲導犬との共同訓練では、犬に拾い食いや誤飲をさせないことも、大事なことのひとつとしてアドバイスされます。ゴミ箱の蓋はいつも閉めておく、床に物を落としたら、どんなに小さなものでも、すぐに拾うように。また、輪ゴムや尖ったものを飲み込むと、腸に絡まったり、詰まったりして命取りになるので、特に注意するようにと指導されます。急死した盲導犬のおなかを開いてみたら、飼い主の靴下が出てきて驚いたという事故も聞いたことがあります。その靴下には、いつもそばにいる飼い主のにおいが付いているので、興味を持って口に入れたのかもしれませんが、そんなことで愛する盲導犬を失ったら、いくら後悔してもしきれないでしょう。そのような事故は他人事とも思えないので、私も日々気を引き締めてレジーナのケアをしているつもりです。ところが、盲導犬の使用歴 11 年目に入った今年 1 月、ついに私も管理上の失敗をしてしまいました。今回はその「小さな事件」の顛末を書きます。

ある日の夕食どき、私がお豆腐を使おうと包丁でパックの蓋を開いたところで、友達の一人から電話がかかってきました。私は咄嗟に、まな板にお豆腐を置いたまま、10 分間ほど彼女としゃべって、料理の続きをしようと調理台に戻ったら、パックに入っていた大きなおとうふの手前側 4 分の 1 ぐらいの量が消えていました。実は、1 頭目の盲導犬アーサとの日々には、そんなことがなかったので、私が気を抜いていたのです。しかし、電話中、何やらカシャカシャという小さな異音も聴こえてはいましたし、それは明らかにレジーナの仕業です。私が調理台から手が届かないところに行ったので、レジーナは「よおし、今だ！」とばかりに、シンクの縁に足を掛けて、おとうふに口をつけたのでしょう。そのときレジーナは既に自分の食事は終えていたので、おとうふデザートを 100 グラムほど、いつもより余計に食べたことになるのです。

それは取りも直さず、管理者としての私の失敗なのですが、盲導犬がユーザーの許しなしに食事をするのは NG。したがって、私はすぐに叱らなくてはいけないのですが、賢いレジーナは、悪いことをしたと分かっていますから、私がいくら「レジーナ、カム(来なさい)」と呼び寄せようとしたのですが、レジーナは全く私の声を受け入れません。それどころか、テーブルの下に逃げ込んで、私の手を交わしながら逃げ回るばかり。1 分ぐらいそんな追いかけっこバトルを繰り返したあげく、やっとつかまえたので、そのおとうふのパックを鼻先に近づけて「ノー、ノー」と叱りました。しかし、そのとき私は、犬を叱りつばなしにはいけない、直後に何か工夫して、犬を褒めてあげなさいという指導員の言葉を思い出しました。何しろ私がおとうふのパックを置きつばなしにしたので、レジーナがそれを食べるようになったのですから、私の管理が悪いのです。それで「レジーナは悪くない、ごめんね。あなたは賢い犬」と言いながら、レジーナをしっかり抱きしめると、レジーナも、いつものように、しっぽをパタパタと振りながら私に甘えてきたので、私たちの関係は途切れていないかなと思っています。

それがおとうふで、よかった！と私は思います。実は、そのおとうふは、レジーナのフウにも載せようと思っていたのです。これまでも何度も食べていて、そのおいしさを知っています。私が友達との電話中、私のためのおとうふ料理も中断したわけですが、レジーナの食事づくりも遅れさせたことになるので「このおとうふ、私もいただけるんでしょ？」と、レジーナに先回りされたのかもしれませんが。

その後レジーナは、おなかをこわすこともなく、けろっとしています。食欲も、いつものように旺盛なので、ほっとしています。やはりレジーナも「犬」なのです。正直に言うと、私が目を離したすきに満足そうにおとうふを食べているレジーナの姿を思い浮かべると、思わず、にこっとしてしまいます。つまり、私は「盲導犬の落ちこぼれユーザー」なのです。



## 編集部より

明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしく申し上げます。通信本号では、いつも元気に全国展開で活躍されている砂長美んさんからの新年のお便りが届きましたので掲載させていただきました。砂長様お忙しい中での投稿誠にありがとうございます。今年も八障連通信への投稿、お待ちしておりますヨ。さて、2022 年明けてそうそうコロナのオミクロン株が急拡大しております。今しばらくコロナとの格闘が続くかもしれません。警戒しつつコロナに負けずに乗り切ってくださいませ。(編集部)



連載コラム

## B型肝炎闘病記

パオ 小濱 義久

闘病史 その60

ふと見上げると尾根道沿いの急斜面にもぼつり、ぼつりとあることが分かり、足元に注意しながら、助走しながら急斜面を登った。枯葉が積み重なった斜面は滑りやすく、探しながら登るのはとても骨が折れた。またその場での撮影はなお困難を極めた。一度撮影中に体勢が崩れ、落ちそうになり、『シモバシラ』もいくつか壊してしまった。

巻き道の左側斜面(南側)に目を走らせながらゆっくり進んでいくと、八丁平へ登っていく斜面にいくつもの『シモバシラ』がほとんど壊されずにあった。足を踏み入れた様子がないので、誰も気づかなかったのかもしれない。喜んだものの、分け入ってみると全てが小ぶりで魅力に欠けた。帰りは左側(北側)の崖下へ落ち込んだ斜面を覗き込みながら進んだ。最初に撮影していた所の下側の緩い斜面にもいくつかあることが分かった。

こちらは大小いくつかの樹木の間を分け入って進まねばならず、地面が見えないほど枯葉が幾重にも堆積していた。魅力的なものは少なかったが、地面に這いつくばって撮影できるので、何枚か撮影した。いつの間にか時間が過ぎ、稜線を越えて朝陽が北斜面にも届いた。その瞬間、氷片の一点に当たった朝陽はキラキラと輝き、とてもこの世のものとは思えないほどきらびやかだった。『シモバシラ』の透明感と屈折した光が微妙な色を作り出した。また、氷片を通して見えた朝陽が何と妖艶に見えたことだろう。この在り様を表現する能力を私はまだ涵養できないでいる。

すっかり太陽が昇ってしまえば、『シモバシラ』は消えていくのみの存在。またの機会を待つことにし、パソコンで見る画像を期待しながら帰路を急いだ。びっくり、がっかり、手のひらに収まるおもちゃのような小さなカメラではいろいろ工夫したつもりが、どの写真も被写体として狙った『シモバシラ』にピントが合っていなかった。朝焼けの富士山の写真も一見良いのだが、何もかもが狙ったものでないものにピントが合っていた。

おもちゃのようなカメラでは、写真撮影はとても難しいと感じた。年末に近所にあるカメラショップをのぞくと、保高さんに初心者向けと勧められたキャノンの PowerShot G9 が展示されていたので、すぐに買い求めた。

2009年1月4日、新しいカメラを持って勇んで高尾山へ向かった。今度は場所が分かっているので、しっかり撮影に専念できると楽



しみだった。31日より気温が低かったようで、形も少し大きなものがあった。2時間ばかりを費やして帰ってきたが、またもやピント外れ。「むずかしかね〜！」こういう時には初心者ゆえの腕の悪さがあからさまに出る。ファイル番号から見ると60枚以上撮ったはずだが、ハードディスクには9枚しか残っていない。残った9枚にもピント外れがあり、まともものはひとつもない。

年始に同じカメラショップへ行ってみると、レンズもセットになった初心者用のキャノンの EOS Kiss X3 が置いてあった。ダブルズームキットというのも魅力的だった。コンパクトカメラから一眼レフカメラへとバージョンアップをしてみようと、すぐに買い求めた。1月25日に再び新しいカメラを抱えて高尾山へ向った。遥かにましにはなったが、透明な、もしくは真っ白な氷片がくつきりと捉らえられた写真は撮れなかった。その後2月7、22日にも撮っているが駄目だった。オートではレンズの焦点が氷片に合わず、すぐ近くにある他の姿かたちがはっきりとした対象物に合ってしまうのだと分かった時にはもう時期が遅すぎた。3脚を立てるようなスペースもなければ、マニュアルでゆっくりとピントを合わせる力もまだ持っていなかった。

この『シモバシラ』撮影は2011年の正月まで続けたが、満足のいくものはできなかった。いつ頃から始まったか、「馬天使」の年2回の作品展に途中から参加させてもらっていたが、2011年1月16日に撮影した『シモバシラ』をフォトショップでデフォルメしたものを作品化し、出展した。これを『シモバシラ』の卒業写真とした。これは私のお気に入りのひとつとなっているのだ。(次号に続く)